



11.10. 久しぶりの日曜日。のんびりと朝柏の教会にでかけ、そのあと上野の美術館にでも出かけようと上野駅に着くと丁度午後1時発の上越線特急「水上・草津号」の発車のベルがなっており、思わず駆け込んで乗ってしまう。

まあ、汽車の中から山見ながら、紅葉の谷川岳・一の倉沢を見に行っても良いし、草津か万座へ言っても良いしと車掌には行き先猛ちちょっと後で決めると・・・。

熊谷駅を通過高崎に近づくが、お天気は快晴なのですが、左手に見えるはずの富士山は見え、一方右手にはベトリと雪のついた赤城山から 足尾・奥日光の連山が見える。もう上越の山は雪化粧。高崎で降りて、今紅葉が真っ盛りとTVが伝えていた妙義山山麓を紅葉を見ながら歩く事にする。

妙義・赤城・榛名山を上毛三山という。妙義山はその一つ。妙義山だけまだ登ったことがなく、残っている。そのゴツゴツとした岩山の特異な形とその紅葉の美しさで知られた山で一度は是非登りたい山。頂上部は険しいゴツゴツの山ですが、多くの登山道・山裾のハイキングコースもあり、今回は時間も遅いし、紅葉の散策。

高崎から信越線に乗り換えて約15分碓氷峠へ差し掛かる手前の群馬県松井田から妙義山に入る。



妙義山 遠望 信越線車窓より 2002.11.10.

高崎駅を出て 汽車は上州と信州を分ける碓氷峠から流れ下ってくる碓氷川を渡って、大きくカーブして田園地帯を信州へ向う。

すすきが建ち並ぶ野原越しにゴツゴツとこぶを幾重にも連ねた特異な山が見え、その右には真っ白な雪に覆われた浅間山が見えてくる。妙義山である。

写真やガイドブックでは何度も見た

ことあるのてずが、じっくりと意識して眺めるのは初めて。

汽車はどんどんこの妙義山に近づいて ほどなく松井田駅。もっと大きな駅かと思っていましたが、まったく何にもない普通の駅。

タクシーを捕まえて ドライブウェイを妙義山の岩峰が見える妙義神社へ 着いたのはもう3時半を越えて 紅葉の木々に埋まって見上げる妙義山の岩峰 には西日があたり、夕暮れが迫っている。妙義山の反対側には 広がる高崎の街越しに赤城山が堂々とした姿を見せている。



妙 義 山 山麓 妙義山神社より



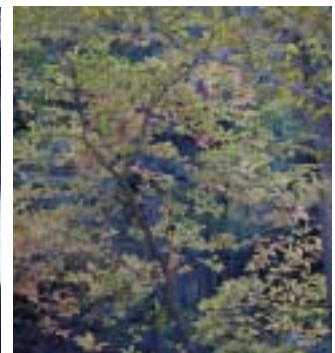
赤城山 遠望

紅葉を見るのは やっぱり、山中の森の中にはいらねば・・・と妙義山の中腹岩峰の裾につけられた登山道に踏み入れる。ドライブウェイの喧騒から離れ、紅葉した木々の中につつまれる。

昨年 安達太良山くろがね小屋周辺で経験したあの体全体が紅葉で染まるあの経験 今年ダメかと思っ  
ていましたが、妙義の山中の紅葉に身を置く事が出来ました。妙義山は里から近く山が浅い事もあっ  
てあの安達太良の幾重にも重なり合った濃厚さはなし。でも、紅葉と岩とのコントラスト 一本一本色  
形の変わる紅葉が美しい。

しばらく紅葉と岩山を眺めながら紅葉した林の中を歩き、妙義神社へ出てきたときにはもう 真っ暗。

**妙義山の紅葉 妙義山山麓の登山道散策 2002.11.10.**





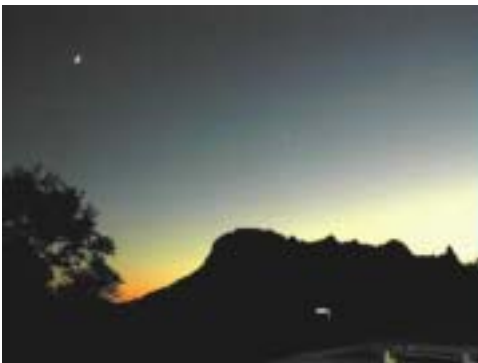
関東で一二を争う紅葉の名勝 妙義山  
 岩と紅葉のコントラストが美しかったですが、残念ながら昨年見たあの真っ赤な紅葉には出会えず。  
 今年はどうも夏から一挙に冬になったため、色づきが悪いのかもしれない。  
 でも おもいもかけず、日曜日の午後 妙義山の山麓で紅葉狩り。  
 上野から上州へ こんなにたん時間で行けるとは意外でした。

冬は岩場が恐ろしいので 次は来年の春 朝早く起きて妙義山か裏妙義へしっかり歩いてみたい。  
 また この裏妙義・万座の谷合いは古くからの砂鉄の産地。今はもう全くわからなくなっているが、たたら遺跡にも訪ねてみたい。



妙義山の夕暮れ 高崎 遠望

2002.11.10 高崎かの快速電車の窓にもたれながら  
 by M. Nakanishi



妙義山の夕ぐれ 2002.11.10.夕